

# 黒潮鳴れる

(昭和四年寮歌)

須田政美君 作歌  
森忠文君 作曲

一

黒潮鳴れる滄海越えて  
際限無き春を北州に訪ふ  
原始の大森に八光揺ぎ  
若草の曠野に羊群遊ぶ

二

情懷は臘月に仄かに薫る  
アカシヤの白花慕ひて歩む  
恋ふる往昔の静寂けき名残り  
古塔にひびく懷しき鐘

三

紅光うすくエルムに映えて  
草笛かそかに牧場になる  
漂泊らひ行ける白雲影仰ぎ  
無心の若人らは緑に臥せり

四

果無き憧憬銀河に寄せて  
玻璃永劫の清き夜空を  
神秘の皓翼声なく衝ちつ  
我等が高夢は流れゆくかな

五

淋しき風声に銀雪は乱れつ  
大空鳴りて渾瞑く暮れゆく  
燦めく灯影常春の謳歌  
血潮と共に尚湧き立てり

六

久遠の絢夢はうづもれゆきて  
哀愁時にしづかに来れど  
雄き「自然」と「血潮」の人は  
檣陵に永くうつくしく立つ